

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

開会挨拶

木村 浩（NPO 法人パブリック・アウトリーチ／研究代表者）

（司会） それでは、時間になりましたので、文部科学省原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブ課題、『原子カムラ』の境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行』に関するシンポジウムを、『原子カムラ』の境界を越えるためのコミュニケーション ～『フォーラム』の試み～』と題しまして、NPO 法人パブリック・アウトリーチの主催の下、執り行います。

はじめに、資料の確認と、本日のシンポジウムの進め方をご説明申し上げます。

皆様のお手元の、A3 を 2 つ折りにした紙の中に、本日の発表資料が 4 種類入っています。また、青とピンクの用紙も挟んでございます。資料に不備があった場合は、受付にお申し出ください。

2 つ折りにした表紙の裏に、本日のプログラムが書かれています。

この後、開会挨拶に続いて、この研究の代表者である木村浩から、「プロジェクトの目的・手法・枠組み」をお話いたします。

13 時半からは、関西大学の土田昭司先生から、「市民と専門家の意識調査」についてお話いたします。

13 時 55 分からは、NPO 法人パブリック・アウトリーチの竹中一真より、「コミュニケーション・フィールド『フォーラム』の効果」について、ご紹介いたします。

14 時 20 分から、再び木村浩より、『フォーラム』の社会実装に向けて』と題するご報告をいたします。

ここまでの 4 件の発表に関して、疑問やコメント、お聞きになりたいことなどがありましたら、お配りした青い用紙にお書きください。休憩時間にスタッフが集めにまいります。

20 分間の休憩をはさんだ後、「市民と専門家のコミュニケーションはどうあるべきか」と題して、パネルディスカッションを行います。コーディネーターは木村浩、パネリストは、関西大学の土田庄司先生、NPO 法人パブリック・アウトリーチの竹中一真、諸葛宗男、それから、昨年度このプロジェクトの外部評価委員をお引き受けいただいた森田朗先生の 4 名になります。休憩時間に集めた皆様からのご質問、お聞きになりたいことなどについて、壇上の発表者から回答していただきます。約 1 時間半を予定していますが、時間があるようでしたら、会場から追加でご質問をお受けできるかもしれません。

終了は 16 時半の予定です。

なお、本日のシンポジウムの記録は、パブリック・アウトリーチのホームページにて後日公開いたします。

それでは、プログラムに沿って進めていきたいと思えます。最初に、開会の挨拶を木村浩より申し上げます。

(木村) 皆様、本日はご参加いただきまして、まことにありがとうございます。私は、このプロジェクトの研究代表者を務めております、木村と申します。よろしく願いいたします。

この研究は、文部科学省原子力基礎基盤戦略研究イニシアティブの課題として採択され、実施してきたものでございます。実施期間は平成 24 年度から平成 26 年度、正確には平成 24 年の 10 月から平成 27 年の 3 月までとなります。約 2 年が経過したわけですが、ここまでの成果を皆さんにお示しして、質問、要望、提案などをお受けして、残り 3 か月でよりよいまとめをしていきたいと考えています。今日は、いろいろなご意見、ご感想をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

先ほども説明がありましたけれども、本日は青とピンクの 2 種類の紙を用意しています。こちらの青い紙には、前半の講演をお聞きいただいたときに抱いた疑問や、パネルディスカッションの際に聞きたいことを書いていただければと思います。時間の都合上、そのときそのときに質問時間を取ってお答えするのは難しいかもしれませんので、青い紙に質問を書いていただいて、それを休憩時間に回収して、パネルディスカッションのときに代表的な質問を時間の許す限りお答えする、という形で進めたいと考えています。

また、シンポジウムが終わったときに、この研究に対するご感想やご要望、ご意見、ご提案がありましたら、こちらのピンクの紙にお書きください。お帰りの際に、受付で回収させていただきたいと思えます。ここでいただいたご提案やご意見を基に、研究グループの中で検討して、この研究をよりよいものとしてまとめていきたいと考えている所存でございます。

本日は、3 時間半ということで、かなり長い時間になりますけれども、最後までお付き合いいただきますよう、よろしく願いいたします。